

CULIB NEWS

「図書館の役割」

中京大学図書館長 檜山 幸夫

図書館は、人類が築いてきた凡そ文化と称する様々な知的記録を集積してきた「知の蔵」でもあった。その機能も時代とともに変化し、近代以降は「文化の発信の場」として社会への拘わりを持つようになり、さらに、現代では「知的情報の発信拠点」としてより積極的に文化の発展を担っている。その一つが、所蔵する資料を電子情報化してインターネット上で提供するという、発想の転換であろう。

そもそも、図書館とは利用者自らが足を運んで文献図書を読覧するための施設であったが、大正時代頃から市民教育の一つとして読書習慣の大衆化を図るために、図書館の利用を促すとともに、読書そのものを生活の場に取り入れ習慣化させるために積極的な働きかけを行うようになる。日本統治下の台湾でも、内地から十数年遅れた昭和7年1月に、台湾図書館協会と台湾教育会が主催し台湾総督府等の後援で、最初の図書館週間が行われた。これが契機となり、台湾社会に読書習慣が広がっていくが、その運動の中心になったのが台湾総督府図書館であった。

この図書館は当時、蔵書数13万冊を有し、台北帝国大学図書館（現在の国立台湾大学）の25万冊と合わせて66.7%を占めていた（この2館以外に公私立図書館69館と学校児童文庫600庫があった）。総督府図書館の特徴は、一般図書はもとより『官報』『府報』をはじめ総督府各官署が編纂した刊行物から『台湾日日新報』などの新聞資料といった日本統治の基礎資料と、西郷従道・水野遵などの私文書をはじめ日本の古文書をも収蔵していた総合図書館であった。これらの収蔵物は、敗戦後、国立台湾図書

館（元中華民国国立中央図書館台湾分館）に日文資料として引き継がれている。同館は地上7階・地下3階（6万㎡）、蔵書数153万5707冊（その他に、雑誌・新聞・非図書・電子資料）で、2017年度閲覧者241万7541人と代表的な図書館となっている。

同館に引き継がれた日文資料は、同館6階に集められて、そこが台湾史研究の拠点ともなっている。そこは閲覧・展示・事務に分かれ、閲覧区は個室式研究室8室と一般閲覧者用の電源付き個人用机が置かれ、図書は開架式書棚に並べられ、自由に利用できる。この他、プリンター付きマイクロリーダーと電子資料用のパソコン、コピー室があり自由に利用し複写もできる。展示区はかなり広く、収蔵している日文欧文資料を中心に企画展示が行われている（現在は「帝國之眼 館藏舊籍警務類書展」）。ここでの展示は、展示する書籍の選択や解説文の水準の高さから専門的知識をもった専任の館員が関わっていることが判る。

その展示の目的は、一般の来館者に「台湾学」の啓蒙と日本語文献の利用を促すことにあるように思われる。つまり、同館は単に日本統治時代の資料を収蔵している「書庫」ではなく、それを積極的に活用し、同館が担っている「台湾学」を推進する社会教育的機能を果たしているもいえる。それは、あたかも昭和7年に総督府図書館が担った読書の大衆化を推し進めた時と同じようでもある。

日本の図書館、また中京大学図書館の将来を考えるにあたり、社会教育的機能を前面に出した国立台湾図書館の在り方は、参考例の一つとなるだろう。

CULIB HISTORY

「クリブヒストリー」

— 図書館の過去・現在・未来 —

第7章

中京短期大学・中京大学の誕生と図書館(1954年～)

昭和29（1954）年4月、中京大学の前身である中京短期大学が現在の名古屋キャンパスに開学し、同時に図書館もスタートした。2年後の昭和31（1956）年には、中京大学が誕生した（中京短期大学の学生募集は停止）。今シリーズでは、図書館の黎明期とも呼べる開学当初から、1969年に旧図書館本館（現在の名古屋図書館の前身）が開館した前後までの様子を振り返ってみよう。

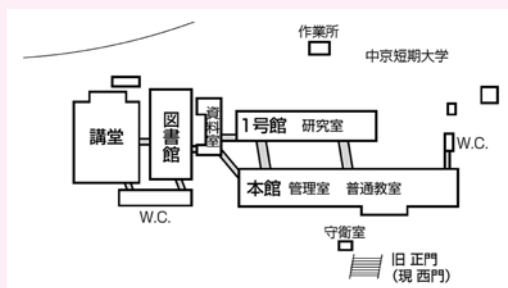
第1節 短期大学から4年制大学の進化の中で

中京短期大学は八事本町の中京商業学校女子部跡に建てられた。木造2階建ての講義棟1棟と平屋建ての研究室・図書館・講堂で構成された。1キロ離れた中京商業高校（現・中京大附属中京高）の体育館や教室も供用していたが、その共用部分を含めても校舎面積は2,640平方メートル、現名古屋キャンパスの約30分の1に過ぎなかった。図書館は現在4号館が建っている位置にあった。学生数75人、教員20人、蔵書数はわずか10,503冊だった。

下の写真は短期大学開設時の校舎建設の風景とキャンパス図だ。写真の左側に数本の木が映っているが、その奥にある建物が最初の図書館である。



▲この写真の左端が図書館（5・6本の立木の奥にある建物）昭和29（1954）年



◀開学時の八事キャンパス（上記写真と比較）

CULIB HISTORY

中京短期大学は商科単独だったが、2年後に発足した4年制の「中京大学」には、専門教育課程としての商学部に加えて、一般教育課程を受け持つ教養部も同時に設置された。教養部の図書閲覧室は、川名本町にある中京商業高校内に設置された。蔵書数は八事・川名を合わせて約27,000冊となっていた。

下の左の写真は中京商業高校内にあった教養部の図書閲覧室である。右の写真は八事の図書館建設当初の書庫だ。木製のシェルビー（本棚）が古さを感じさせる。



▲中京商業高校にあった教養部の図書閲覧室



▲八事にあった図書館の書庫風景＝昭和29（1954）年ごろ

創立当初、10,000冊だった図書館の蔵書数は、昭和34（1959）年には3倍の約30,000冊に達していた。木造平屋建ての図書館に30,000冊にもものぼる図書をどのようにおいていたのかは、今となっては誰も分からない。おそらく狭いスペースに、ぎっしりと置かれていたのだろう。

この年、中京大学は体育学部体育学科を開設し、2学部2学科体制となった。これに伴って大学本館が完成し、図書館はその4階へ移転した。30,000冊の図書の重量はかなりのものと思われるが、4階まで運ばなければならず、さぞかし人手がかかったはずである。

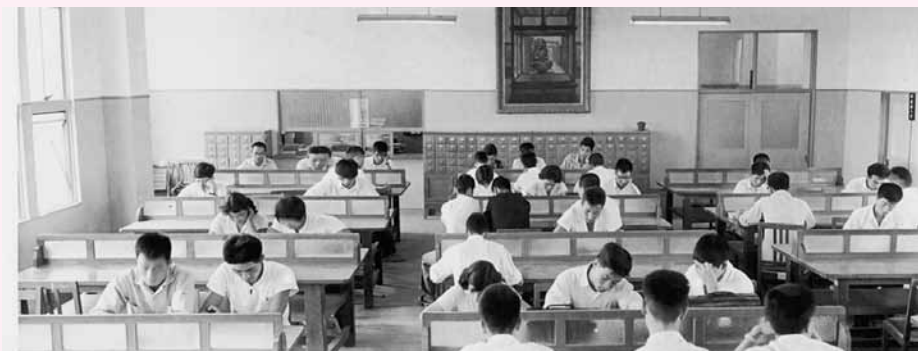
昭和37（1962）年には商学部経営学科、体育学部には健康教育学科を開設、2学部4学科制へと変わった。図書館が大学本館の4階に移転してからの蔵書数の増加は、わずか3,000冊に留まっていて、全蔵書数は約33,000冊だった。この数は、現在の名古屋図書館1階の全書棚の約3分の1にあたる。下の写真は本館4階の図書館書庫の光景である。



▲大学本館4階の時の図書館の書庫

CULIB HISTORY

本館が建設されたのは現在の本部棟と同じ位置である。山手通りに面した場所だ。このため書庫ではあるが、とても明るい感じがする。しかし書庫が明るいということは、太陽の光で図書の表紙が焼けてしまう可能性もある。あまり薦められたものではない。当時の書庫の利用方法についての記録はないが、写真から判断すると学生が書庫に自由に入庫できたとは思えない。



▲本館4階の図書館閲覧室（写真の左奥にはカウンターが見え、その奥が書庫となっていることが分かる）

上の写真は本館4階の閲覧室である。写真中央と左端にカードボックスがあり、その間には受付であろうか、窓口らしきものがある。右端は出入り口。6人掛けの机が15ほど置いてあり、90人程度が座れたようだ。

昭和38（1963）年に入ると、現4号館西館が完成した。昭和40（1965）年には現4号館中館が完成、昭和41（1966）年には文学部国文学科、英文学科、心理学科と法学部法律学科が開設された。この間、図書館の蔵書は飛躍的に増加した。文科省（当時は文部科学省）への学部学科設置申請には、設置学部に関する図書数を確保することが要件に含まれていた。本学も文学部と法学部を新設するにあたり、関係図書約20,000冊を蔵書に加えて申請に臨んだ。その結果、図書館の全蔵書数は約50,000冊を超えることとなった。

昭和42（1967）年には現2号館が完成、体育学部には武道学科が開設された。図書館の蔵書数は年間で約5,000冊ずつ増加し、昭和43（1968）年には60,000冊となった。この結果、大学本館4階だけでは、図書の重量に耐えることができない状況が生まれた。今後の大学の発展を見据え、年間に約10,000冊から20,000冊を超える図書資料が増加することを考慮する必要がある。大学としてさらなる進化を遂げるために、「図書館専用棟」は不可欠であり、旧図書館本館である1号館の建設が始まった。

第2節 旧図書館本館（旧1号館）の建設

昭和44（1969）年に、独立棟として当時の名古屋校舎の東の端に建設された旧図書館本館は、堂々たる外見だった。校倉造りのその風貌は、当時の名古屋校舎のランドマーク的な存在となった。旧図書館本館は年間約10,000冊の増加を見込んで、当初は30万冊を収容できる図書館として建築された。しかし、蔵書数は予想の2倍近いペースで増え続けた。蔵書数は昭和43（1968）年に58,489冊だったが、建築後10年間で169,935冊に増加し、昭和53（1978）年には228,424冊に達した。この間、

CULIB HISTORY

下の写真は、1階2層書庫から2階書庫に上がる階段と2階書庫。2階書庫の棚の段数は10段だった。最上段の図書を取るために階段車（中央の写真）を使用しなければならなかった。



右側にある2枚の写真のうち、左は3階閲覧カウンターとの行き来に使っていた螺旋階段の出入口（奥に事務室が見える）。右は2階書庫から下の書庫を見た写真である。



学生食堂、床屋、売店の改修により、旧図書館本館の収蔵冊数は500,000冊となったが、改修に改修を重ねた結果、迷路のようになってしまったことも事実である。電気を消してしまえば真っ暗となり何も見えなかった。非常灯も少なかった。

余談だが、当初の図書館の閉館時間は午後7時だった。教員と大学院生は書庫に入ることができたが、1度だけ大学院生が書庫に閉じ込められてしまったことがあった。当時は、各書庫（各層）に電気のスイッチがあり、閉館時には図書館職員が各書庫を回り、声をかけて誰もいないことを確認して電気を消していたが、書庫が広いことと大学院生の返事の声が小さかったことから、気づかなかったのである。幸い午後10時ごろ、警備員が構内見回りの時に1階書庫の小窓から大学院生が手を出しているのを見つけ救出し、事なきを得たが、この“事件”を受けて、その後職員は書庫の各列まで見て回り、閉じ込め防止に努めるようになった。

旧図書館本館は、2013年に現在の新図書館ができるまでの44年間、利用されてきた。この間には、豊田図書館、LSC（ライブラリーサービスセンター）、LLC（法学文献センター）が移転・増設され、2013年には蔵書数は全体で100万冊に達しようとしていた。旧本館だけでも60万冊を超え、収容能力に限界がきていた。

2018年現在、本学図書館全体の収蔵冊数は100万冊を超えている。今後、どのように図書館を運営していけばよいか、電子資料をどう活用していくのかなど、課題は少なくない。（次回に続く）

（名古屋図書館参事 加藤 恭輔）

REPORT

中学生2人が「職場体験」



名古屋図書館、初の受け入れ

名古屋図書館は6月14、15日の両日、名古屋市立御幸山中学校（同市天白区）の生徒2人に職場体験をしてもらった。名古屋キャンパスでの職場体験学習受け入れは、今回が初めて。

参加したのは、2年生の永江聡汰君と服部新也君。2人は初日、図書館スタッフに引率されて、開架書庫や80万冊を収容できる「自動書庫」、源氏物語の写本などの和古書や洋書が並ぶ「貴重書庫」などを

見学。さらに、書店から納入された本の背表紙に内容や配架場所が分かるラベルを貼る業務（本の装備業務）、カウンターでの本の貸し出し・返却業務、返却された本を元の棚に戻す配架業務などを経験した。

また、2日目は書架の整理や清掃業務、利用者が探せない文献や本を利用者に代わって探す文献検索実習を行った。



返却された本の登録番号をスキャナーで読み込む永江君（右）と服部君

職場体験を終えた感想

永江君

自動書庫がすごかった。また、本の管理がしっかりされていると感じた。利用者に喜ばれる図書館にしようとスタッフの皆さんが努力しているのが分かった。

服部君

利用者が探しやすいように、1冊1冊の本の場所が決まっていて、配架のコツが分かった。将来について考える良い機会となった。



『銀河ヒッチハイク・ガイド』

ダグラス・アダムス

河出文庫

かつて教養といえどもシェイクスピアの作品が挙げられたが、現代の情報技術者の教養といえども20世紀後半のSF作品になるだろう。

Googleに「生命、宇宙、そして万物についての究極の疑問の答え」を聞けば正しく42と計算してくれる（試してみてください）が、本書はその出所として有名である。Wikipediaでの本書の項目が80KBにわたる詳細な説明となっていることから人気がかがえる。

銀河ハイウェイの建設に伴い「ほとんど無害」な地球が破壊される直前、主人公アーサー・デントと宇宙人フォード・プリーフェクトが宇宙船をヒッチハイクするところから物語は始まる。異様にネガティブなロボットマーヴィンなど登場キャラクターも印象深い。プリティッシュジョークも利いており、面白く読めるはずだ。

工学部 講師 鬼頭 信貴



『英語の謎
歴史でわかるコトバの疑問』

岸田 緑溪・早坂 信・奥村 直史

KADOKAWA

みなさんはこれまで英語を学習する中で、例えば「母音で始まる名詞はaではなくてanを使うこと」や「仮定法現在（例えばrequestの目的語のthat節内）において、shouldは省略することができること」という説明を受けて、なぜそうなるのかと不思議に感じたことはないだろうか。このような疑問は英語の歴史を知ることによって解決することができる。本書は英語にまつわる様々な謎・疑問に対して、英語の歴史を通して具体的かつ分かりやすい説明・解答を与えてくれる。また、英語の歴史を知ると上に挙げたような学校で習った説明が実は少し間違っていることに気がつくことだろう。本書を読み英語の歴史を通して、常識とされていることに対して「なぜそうなるのか」と気づく観察眼と常識を疑いつつも真理を追究する力を養ってほしい。

国際英語学部 准教授 松元 洋介

書籍紹介 先生編



『限界国家
—人口減少で日本が迫られる最終選択』

毛受 敏浩

朝日新書

これから劇的に深化する人口減少社会の帰結として、わが国は、国家そのものが消滅する『限界国家』へと向かうのだろうか。暫く前に「限界集落」、「消滅自治体」という刺激的な言葉が世間を賑わしたが、これも大方の日本人、とりわけ東京や名古屋などの大都市に住む人びとにとっては、まだまだ先のことだという意識が根強いに相違ない。本書は、移民を受け入れる立場からの書であるが、多角的な現状分析に加えて、著者は、東南アジア等の親日的な国からの段階的な受け入れ、手厚い日本語教育の提供等による受け入れる仕組みづくり、受け入れ側の日本人自身に対しても多文化共生を推進する担い手づくりという3本柱の政策パッケージを提案している。楽観的過ぎるとの批判はあるだろうが、次世代を担う若者に、政策デザイン力を磨くためにも、一読を薦めたい。

総合政策学部 教授 桑原 英明



英語版
『My Lesbian Experience with Loneliness』

Seven Seas Entertainment, Llc.



中国語版
『我可以被擁抱嗎？因為太過寂寞而叫了蕾絲邊應召』

東販出版（台北）

永田カビ著『さびしすぎてレズ風俗に行きましたレボ』（イースト・プレス刊）の英語版と中国語版である。息苦しさを感じる日々から自分を解き放とうとする苦悩を綴ったこの「赤裸々すぎる実録マンガ」は海外でも人気があるらしく、現在までに英語・スペイン語・中国語の翻訳が刊行されている。そして、人の心の中を漫画という形で描き出しているがゆえに、翻訳に際しても様々な工夫を凝らすことが訳者に求められる。例えば本書のキーワードの一つ「心を開くって、どうするんだっけ…」という言葉にしても、その訳文には「心」「開く」「どうする」という単語は全く見えない。逐語訳ではなく、外国語で表現し直すような翻訳がなされているのである。ぜひ日本語原文と翻訳とを比べながら読んでみていただきたい。

国際教養学部 教授 明木 茂夫



『家康、江戸を建てる』

門井 慶喜

祥伝社

徳川家康が初めて江戸の地に足を踏み入れた時、そこにあったのは、まばらに点在する家屋と粗末な城だけだった。それから十数年後に江戸幕府が開かれ、日本の中心地へと発展するに至るには、基礎を築くために尽力した多くの人々の活躍がある。

川の流れを変えるために「利根川の東遷」事業を行った伊奈忠次、江戸城の石垣を積んだ職人、天守閣を作った徳川家二代目将軍秀忠、慶長小判を作って貨幣の流通に貢献した職人、人が生きるために必要な飲み水を引く事業を行った人…。この本には、一生を費やして困難な事業に立ち向かった人を主人公とした5話が収録されており、さながら「プロジェクトX」のようだ。安土桃山時代から江戸時代に移りゆく中で、野心と信念を持って生き生きと動く男たちの姿に、読者は惹き込まれていくことだろう。

工学部 3年 飯田 瑞斗



『フィンランド・メソッド
5つの基本が学べる
フィンランド国語教科書』

メルヴィ・バレ
マルック・トリネン
リトバ・コスキパー

経済界

本書は優れた教育制度で有名なフィンランドの小学校の教科書を日本語訳したものだ。フィンランドの勉強法で重要な5つの力、発想力、論理力、表現力、批判的思考、コミュニケーション力の促進を重点に置いている。フィンランドの教育では「ミクシ? (なぜ?)」が大切で、ひとつの解答よりも解答を導くプロセスにフォーカスする。そのため本書には、問題の解答が載っていない。これこそ、考えるための教科書といえる。表紙を開けると、標題紙には「この教科書をつかうきみに、ひみつクラブメンバーとなるめいよを与える。」とユニークでこども心をくすぐる文句が載っている。対象年齢は10歳から大人までなので、年齢を超えて、教育に興味がある人、作文が上手になりたい人、考え方を変えたい人に特におすすめしたい。

国際英語学部 3年 杉浦 あや

書籍紹介 学生編



『さびしすぎてレズ風俗
に行きましたレポ』

永田 カビ

イースト・プレス

高校を卒業後10年間、閉塞感に悩まされていた作者は、自身のさびしさを癒す為の手段としてある日、思い切った行動に出る。これは、そうした作者の内心を描き出した実録漫画であり、キャッチーなタイトルと可愛い絵柄が特徴的なだけに、良い意味でも悪い意味でも、読み手の期待を裏切って来る作品かもしれない。自分と他者は異なる存在である。それ故に他者の心の中まで察することは困難である。ところが本作品は、作者自身の不安や孤独感を「漫画」という表現方法で描き出している。作者の言葉と絵を通じて、作者の物の見方、感じ方が読み手に、まるで自分の事のようにひしひしと伝わってくる。「心を開くってどうするんだっけ…?」という作者の言葉を、読者それぞれの立場でかみしめて欲しい作品である。

心理学部 4年 真野 聖子



『人口減少時代の
土地問題』

吉原 祥子

中公新書

所有者の居所や生死がすぐには分からない所有者不明の土地が増えている。国が解決に二の足を踏んでいたため「所有者不明化問題」は、極めて深刻化している。この問題の本質は、人口減少、少子高齢化、グローバル化といった時代の変化に、日本の土地制度が対応していないところにある。問題は固定資産税や都市計画税の未納だけでなく、「空き家」や耕作放棄地など私たちの日常生活にも大きな影響を及ぼしている。この問題の拡大防止と対応策については、相続登記・「受け皿」づくり・土地情報基盤の在り方の見直しなどが挙げられる。より根本的な問題解決の方向性は、土地が個人の財産であるとともに、公共性の高い存在であることを理解することにある。これ以上深刻化しないためにも、一人ひとりがこの問題に向き合うことが大切である。

総合政策学部 3年 春日部 貴紀、田中 裕瑛

LET'S USE
OPAC

図書館の本や雑誌を探す方法

～ OPAC を使おう～

中京大学にある本や雑誌（以下、資料と呼ぶ）は図書館にある端末やご自身のパソコンなどで検索ができます。この検索システムまたは検索機の名前を、OPAC（Online Public Access Catalog の略）といいます。OPAC で検索すると目的の資料を効率よく見つけることができます。



ステップ1 OPAC で資料を探す

- 図書館 HP の右側のリンクボタン「蔵書検索・資料検索」をクリックします。
- 黄色いボタン（ログイン不要）、または青いボタン（ログイン必要・自動書庫出庫、ILL 申込みなど）をクリックします。
- 詳細検索をクリックします。
- 具体的に読みたい本が決まっていな場合は、探したい情報のキーワードをいれて検索ができます。



例えば「安全保障」に関する本が探したい場合は、キーワードの欄に「安全保障」と打ち込むと、関連の本や雑誌などの一覧が表示されます。

- 探したい本が決まっている場合は本のタイトル、著者名などで検索ができます。

ステップ2 検索結果を読みとく

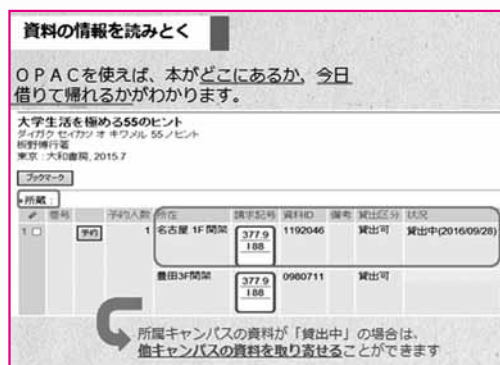
- 本のタイトル名をクリックして、本の「所蔵」を確認します。本が図書館のどこにあるかが見ればわかります。

所在…本の置いてある場所です。

例 開架…自由に手に取れる棚

閉架…書庫の中にある棚

- 請求記号…本の内容や配架場所、書架の並び順がわかる大切な情報です。

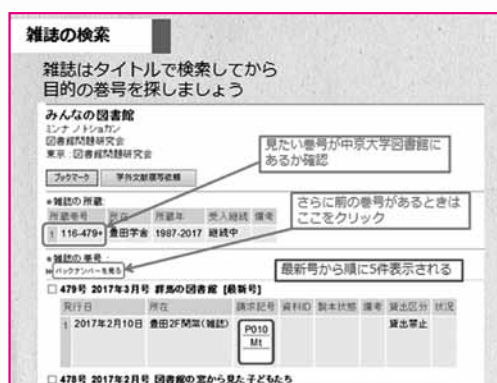


- 資料 ID…本1冊それぞれにつけられた番号です。
- 貸出区分…その本が貸し出しできるかどうかわかります。「貸出可」もしくは「貸出禁止」と表示されます。
- 状況…本が現在貸出中の場合、返却期限が表示されます。空欄の場合は貸出可能です。
- 所属キャンパスに貸し出しのできる資料があれば、すぐに利用可能です。
- 所属キャンパスの資料が貸出中でも、他のキャンパスに資料があれば、取り寄せができます。取り寄せを希望する場合は資料請求票に請求記号、資料 ID 等を記入してカウンターにお持ちください。
- 所在が「名古屋自動書庫」だった場合、ログインをした状態で資料の検索をしてください。
- 状況欄に「この本を読む」というボタンが表示されますので押してください。3～4分後に名古屋図書館のカウンターで受け取ることができます。



ステップ3 雑誌の検索をする

- 雑誌の場合はまずタイトルで検索してから目的の巻号があるかを探します。(キーワードに巻号を入れてしまうとヒットしないので注意)
- 目的の巻号があるかは「所蔵巻号」を見て確認してください。
- 数字の右の + は受け入れ継続中という意味です。古い巻号が見たい場合は「バックナンバーを見る」をクリックして、目的の巻号、発行年などを入力します。



図書館ホームページ リニューアル!

メニューを分かりやすく変更しました。図書館カレンダーはどのメニューページからでも見ることができます。「トップページ」では最新ニュースを発信、各館の写真も見るすることができます。「利用方法」では開館日・開館時間・休館日はもちろん、利用案内も見るすることができます。「学術情報リポジトリ」にもメニューからすぐにアクセスできます。

2018年度 図書館カレンダー

図書館の一年間の開館予定がご覧になれます。

各館ごとの臨時休館、開館時間の変更等は、図書館ホームページの【News】でご案内いたします。

◎通常の開館時間

	名古屋図書館 (NL)	ライブラリーサービスセンター (LSC)	法学文献センター (LLC)	豊田図書館 (TL)
平日	9:00～22:00 <small>(中京大学の教職員証・学生証をお持ちでない方は下記時間内に入館して下さい 平日9:00～19:00、土曜日9:00～15:00)</small>	9:00～20:00	9:00～19:00	9:00～20:30
土曜日		9:00～12:30	9:00～12:30	9:00～17:30

◎日付の色について

無印は通常開館日 (開講期)

○は休講期 (全館 平日9:00～17:00、土曜日9:00～12:30)

■は休館日

●は定期試験月の休日開館日 (10:00～17:00)

	名古屋図書館 (NL)							ライブラリーサービスセンター (LSC)							法学文献センター (LLC)							豊田図書館 (TL)						
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
10月		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13	7	8	9	10	11	12	13	7	8	9	10	11	12	13	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20	14	15	16	17	18	19	20	14	15	16	17	18	19	20	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27	21	22	23	24	25	26	27	21	22	23	24	25	26	27	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31				28	29	30	31				28	29	30	31				28	29	30	31			
11月				1	2	3					1	2	3					1	2	3					1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10	4	5	6	7	8	9	10	4	5	6	7	8	9	10	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17	11	12	13	14	15	16	17	11	12	13	14	15	16	17	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24	18	19	20	21	22	23	24	18	19	20	21	22	23	24	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30		25	26	27	28	29	30		25	26	27	28	29	30		25	26	27	28	29	30	
12月						1							1							1							1	
	2	3	4	5	6	7	8	2	3	4	5	6	7	8	2	3	4	5	6	7	8	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15	9	10	11	12	13	14	15	9	10	11	12	13	14	15	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22	16	17	18	19	20	21	22	16	17	18	19	20	21	22	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29	23	24	25	26	27	28	29	23	24	25	26	27	28	29	23	24	25	26	27	28	29
	30	31						30	31						30	31						30	31					
1月			1	2	3	4	5			1	2	3	4	5			1	2	3	4	5			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12	6	7	8	9	10	11	12	6	7	8	9	10	11	12	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19	13	14	15	16	17	18	19	13	14	15	16	17	18	19	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26	20	21	22	23	24	25	26	20	21	22	23	24	25	26	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31			27	28	29	30	31			27	28	29	30	31			27	28	29	30	31		
2月					1	2						1	2						1	2						1	2	
	3	4	5	6	7	8	9	3	4	5	6	7	8	9	3	4	5	6	7	8	9	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16	10	11	12	13	14	15	16	10	11	12	13	14	15	16	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23	17	18	19	20	21	22	23	17	18	19	20	21	22	23	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28			24	25	26	27	28			24	25	26	27	28			24	25	26	27	28		
3月					1	2						1	2						1	2						1	2	
	3	4	5	6	7	8	9	3	4	5	6	7	8	9	3	4	5	6	7	8	9	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16	10	11	12	13	14	15	16	10	11	12	13	14	15	16	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23	17	18	19	20	21	22	23	17	18	19	20	21	22	23	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30	24	25	26	27	28	29	30	24	25	26	27	28	29	30	24	25	26	27	28	29	30
	31							31							31							31						

発行 中京大学図書館

〒466-8666 名古屋市昭和区八事本町101-2 TEL(052)835-7157 <https://www.chukyo-u.ac.jp/extension/library/> 印刷 株式会社 一誠社